

「現代の国語」学習指導案

授業者：
指導教員：]

1. 講座
2. 日時 2024年6月27日(木) 10:50~11:40
3. 教科書 筑摩書房『現代の国語』
4. 単元名 ことばで伝える思いと考える
5. 教材 松井圭一郎「贈り物と商品の違い」
6. 単元について

- (1) 単元の目標
- ・本文の論理展開や抽象的な概念・表現を理解することができる。
 - ・筆者の主張を捉え、自分の言葉で表現することができる。
 - ・上記を踏まえ、私たちが感じている世界がどのような枠組みによって構築されているかを考えることができる。

- (2) 教材観
- 本教材は、「商品/経済」と「贈り物/非経済」の違いを考えることを通して、モノを介したコミュニケーションに関する筆者の考えが述べられた評論である。パレンタインダーのチョコレートや、ハンバーガーショップの店員のスマイルといったような、なじみ深い事例が繰り返し登場するため、本文の内容は全体的に捉えやすいと考えられる。また、抽象的な概念も度々用いられているため、こちらに関しては理解を促す必要があるだろう。「商品交換」「贈与」といった二項対立に基づく論理展開や、似た内容が繰り返し述べられている点に着目させることで、筆者の主張や論旨の理解に繋げたい。そして最終的には本文をもとに、重要な箇所を捉え、要約文を完成させる力を培うことを目標にする。

- (3) 生徒観
- 本学級の生徒たちの現代文読解に関する基礎的な能力は高く、個々人で問題に取り組む力にも長けている。積極的な生徒も多いため、新しい文章に対して億劫になっている様子はあまり見られない。しかし、基礎的な力は充分にある一方で、論理展開を掴んだうえで、発問に対して適切な表現で字数が多めの答案をまとめることが苦手の傾向にあるようだ。要約等に関してもまだ慣れが足りず、同様の様子である。そのため、本単元を通して、全体の文章構造を捉えることで、筆者の主張や本文の要旨をおさえ、自分なりの言葉で構成し直す力を身につけることを目指したい。

(4) 指導観

はじめに前回の授業の復習を行い、内容を思い出させる。音読の後、本文の読解に入るが、内容を捉えやすくするため、意味段落ごとに取り組むことにする。本文中で問題提起として取り上げられていることや、抽象的な言葉の理解を通して、本文全体の要旨を捉えていくことを中心に授業を進める。実際に問いを解く際には、ただ個々人で問題に取り組むだけでなく、ペアやグループでも取り組み、ワークシートを用いて要旨や答えを互いに伝え合うことで、自分の考えを深める場を設けることとする。また、個人ワークとグループワークを掛け合わせることで、生徒自身がより深い理解を導くことができるようにしたいと考える。

7. 単元の評価基準

A 知識及び技能	思考力・判断力・表現力等			E 学びに向かう 人間性
	B 聞くこと・ 話すこと	C 書くこと	D 読むこと	
・カギカッコの効果に注意して、文章中の語句を正しく理解することが出来る。	・問いに対する自分の考えを他者に適切に伝え、深めることが出来ている。	・本文を踏まえ、問いに対し、自分の言葉で考えを表現できる。	・「商品交換」と「贈与」という2種の対比から展開される本文の構成を捉えることが出来る。	・「モノを介したコミュニケーション」について、自分の周囲に当てはめて考えようとしている。

8. 本時の指導計画 (5/5 時間目)

- (1) 本時の目標
- ・筆者の主張を捉えることが出来る。
 - ・「モノを介したコミュニケーション」について、その仕組みや役割を考えることが出来る。
- (2) 本時の展開

	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
導入 (十二分)	○漢字テスト (7分) ○前回の授業の振り返り (1分) ・モノを介したコミュニケーション (「商品交換」or「贈与」と「感情/共感」との関係について答える。 ○本時のめあての確認 (1分) ○意味段落3 (㉔~㉞) を音読 (3分) ・ペア (左右 or 前後)	・指名して回答させる (2人) ・「商品交換」「贈与」それぞれのやり取りの時に、「感情」はどのように作用するのかを考えさせる。 ・前回の最後の問いと繋げ、作用した結果どのようなになるのかも確認する。 ・口頭で伝える。 ・ペアの相手は指定する。 ・振り返りで確認したこと、筆者の主張について意識させる。	・本文を正しく読めているか (A)

展開一 (十四分)	意味段落3 ○(4)「交換や贈与というモノを介したコミュニケーションは、まさにその『輪』をつなげたり、切り離したりする行為なのだ」とはどのようなことか、60字以内でまとめる。 ・個人(4分)→グループ(4分) ・メンチメーターで答えを共有する。 ○答え合わせ(5分) ・解答例を丸々書くより、解答要素を捉えられているかを重視して確認する。 ○感情/共感に関する筆者の考えが述べられているところを確認する。(1分)	・様子を見て、状況に応じて時間を延ばす(+1分まで) ・「モノを介したコミュニケーション」=「贈与」or「交換」であること、「『輪を繋げる』『切り離す』がどちらの行為に当てはまるかを意識させる。 ・メンチメーターの答えを共有して、ポイントで答えを見る。 ・PPで解答例を共有する。 ・意味段落3が、同じような言葉の繰り返しで成り立っていることに着目する。	・筆者の考える「モノを介したコミュニケーション」がどのようなものであるかを理解し、要点を自分でまとめることができるか(C) ・繰り返し述べられている筆者の主張を理解できる(D)
--------------	---	--	--

展開二 (十七分)	○(-) 要約のための練習 ・個人(7分)→グループ(4分) ・文章を読み返しながら、各意味段落で重要な文を1、2個ずつ探し出す。 ○意味段落ごとの重要な文の確認をする(3分) ・指名されたグループは解答する。 ○百字要約の確認をする(3分) ・解答例を丸々書くより、解答要素を捉えられているかを重視して確認する。	・重要な文の意味段落ごとの個数を伝える。 ・グループでの共有が早く終わった班は「○百字要約をしてみよう」に取り組むように指示をする。 ・様子を見て、状況に応じて時間を延ばす(+1分まで)。 ・グループワーク中、何か新しい気づきがあれば【メモ】の欄に書くように指示をする。 ・3~5グループ指名する。 ・文の確認だけでなく、それに至るまでの過程も含めて、本文に沿って確認する。 ・メモの時間を取る(各30秒) ・PPに表示する。 ・意味段落ごとの重要な文と要素を重ねて伝える	・他者と意見を交流し、自分の意見を深めることができる(B) ・筆者の主張を理解し、要旨を自分でまとめることができるか(C) ・グループワークに積極的に取り組んでいるか(E)
まとめ (七分)	○生活に潜む特別な演出について考える(3分) ・ペアワーク ○文章全体をまとめる(2分) ○授業後アンケート採る(2分)	・どのような演出が込められているか、どのような「印」によって区別が付けられているかを考えさせる。 ・指名して解答させる(2、3人)。 ・意味段落ごとに振り返る。	・「モノを介したコミュニケーション」について、自分に当てはめて考えようとしている(E)

年 組 氏名 (

○「感情」とは、①

【日本】自然と感情を生じさせるような状況が②

人と人とのやりとりを「③

*思いや感情↓
「⑤」

*対面する人は、
⑥

○コミュニケーションの基盤となる「共感」を⑦

(二)「他者のしぐさの置かれている文脈に自分自身を同化させる」とはどのようなことか考
えよう。

(三) 『ルールに則って作動する』とはどのようなことか』考えよう。

(四)「交換や贈与というモノを介したコミュニケーションは、まさにその『輪』をつなげたり、切り離したりする行為なのだ」とあるが、「その『輪』をつなげたり、切り離したりする行為なのだ」はどのようなことが、六十文字以内でまとめよう。

▼個人

▼グループ

【又モ】

○本文中から大事な要素を探し出そう

【意味段落1】

⑬わざわざ「商品らしき」や「贈り物らしき」を演出しているのだ。

【意味段落2】

⑭じつは、この「きまり」をとおして、
ほからは二種類のモノのやりとりの一方に
「なにか」を付け加え、他方からは「なにか」
を差し引いている。

⑮それは、「思い」あるいは「感情」と
言ってもいいかもしれない。

【意味段落3】

⑯交換や贈与というモノを介したコミュニケ
ションは、まさにその「輪」をつなげたり
切り離したりする行為なのだ。

四

①「相手がモノや行為に込めた思いや感情の
意味を読み取って、自分自身もへる感情や共
感を込めたり、抑制したりすること。」

(五十六文字)

①「まさに、その『輪』を繋げたり」部分

・相手の感情を読み取り、
コミュニケーションをすること

②「他者の身体に生起している」

←「相手がモノや行為に込めた思いを
読み取り、自分も感情を込めようとする」

②「切り離したりする行為」部分

・「贈与」・「商品交換」

⑤「ここでは、感情や共感が抑制される」

*同じような事柄の繰り返しで意味段落3
が成り立っている！

13

14

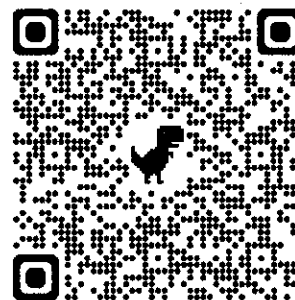
○本文全体の要旨をまとめよう

(百字以内)

商品交換と贈与はモノを介したコミュニケ
ションであり、私たちは①「演出された
「商品らしき」や「贈り物らしき」から
②「相手の感情の有無を読み取り、
③「コミュニケーションの基盤となる
「共感」を込めたり抑制したりする。」

15

授業後
アンケート



16

贈り物と商品の違い

まつむらけいいちろう
松村圭一郎

《提言》本文に多く見られる「経済」「交換」「返礼」「時間」など、一般的なことばに力ギカッコを付ける表現の効果について考えてみよう。

①店で商品を購入するとき、金銭との交換が行われる。でも、バレンタインデーにチョコレートを贈るときには、その対価が支払われることはない。好きな人に思い切って、「これ受けとってください。」とチョコレートを渡したとき、「え？いくらだったの？」と財布からお金をとり出されたりしたら、たいへんな屈辱になる。

②贈り物をもろう側も、その場では対価を払わずに受けとることが求められる。このチョコレートを「渡す／受けとる」という行為は贈与であって、売買のような商品交換ではない。だから「経済」とは考えられない。

③では、ホワイトデーにクッキーのお返しがあるとき、それは「交換」になるのだろうか。この行為も、ふつうは贈与への「返礼」として、商品交換から区別される。たとえばほとんど等価のものがやりとりされていても、それは売買とは違う。そう考えられている。

④商品交換と贈与を区別しているものはなにか？

⑤フランスの社会学者ピエール・ブルデュは、その区別をつくりだしているのは、モノ

のやりとりのあいだに差しはさまれた「時間」だと指摘した。

⑥たとえば、チョコレートをもらって、すぐに相手にクッキーを返したとしたら、これは等価なものを取り引する経済的な「交換」となる。ところが、そのチョコレートの代金に相当するクッキーを一カ月後に渡したとしても、それは商品交換ではない。返礼という「贈与」の一部とみなされる。このとき、やりとりされるモノの「等価性」は伏せられ、「交換」らしさが消える。

⑦商品交換と贈与を分けているものは時間だけではない。お店でチョコレートを購入したあと、そのチョコレートの値札がついていたら、かならずその値札をはずさだろう。さらに、チョコレートの箱にリボンをつけたり、それらしい包装をしたりして、「贈り物らしさ」を演出するにちがいない。

⑧店の棚にある値札のついたチョコレートは、それが客への「贈り物」でも、店内の「装飾品」でもなく、お金を払って購入すべき「商品」だと、誰も疑わない。でもだからこそ、その商品を購入して、贈り物として人に渡すときには、その「商品らしさ」をきれいにそぎ落として、「贈り物」に仕立てあげなければならない。

⑨なぜ、そんなことが必要になるのか？

⑩ひとつには、ぼくらが「商品／経済」と「贈り物／非経済」をきちんと区別すべきだという「きまり」にとっても忠実だからだ。この区別をおして、世界のリアリティの

1 バレンタインデー 二月一日。この日に、友人や恋人同士でカードを交換したり、贈り物をしたる習慣がある。もとは、ローマ時代のキリスト教殉教者ウァレンティヌスの祝日。「英語」St. Valentine's day

2 ホワイトデー 三月一日。一般的に、バレンタインデーにチョコレートをもらった男性が、女性にお返しのプレゼントを贈る日とされる。

3 ピエール・ブルデュ
Pierre Bourdieu 一九三〇—二〇〇二年。フランスの社会学者・哲学者。



■「等価性」が「伏せられ」とはどのようなことか。

4 リアリティ 現実感。真実性。「英語」reality
(等価) (二端)

端がかたちづけられているとさえいえる。

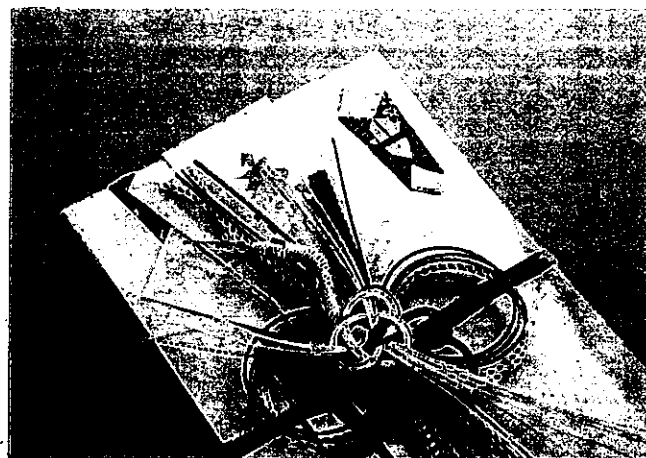
⑪ そして、それはチョコレートを購入すること、プレゼントとして贈ることが、なんらかの外的な表示（時間差、値札、リボン、包装）でしか区別できないことを示している。

⑫ たとえば、バレンタインの日にコンビニの袋に入った板チョコをレシートとともに渡されたとしたら、それがなにを意図しているのか、戸惑ってしまうだろう。でも同じチョコレートがきれいに包装されてリボンがつけられ、メッセージカードなんか添えられていたら、たとえ中身が同じ商品でも、まったく意味が変わってしまう。ほんの表面的な「印」の違いが、歴然とした差異を生む。

⑬ ぼくらは同じチョコレートが人と人とのあいだでやりとりされることが、どこかで区別しがい行為だと感じている。だから、わざわざ「商品らしさ」や「贈り物らしさ」を演出しているのだ。

⑭ ぼくらは人とのモノのやりとりを、そのつど経済的な行為にしたり、経済とは関係のない行為にしたりしている。「経済化」商品らしくすること「は」、「脱経済化」贈り物にする」との対比のなかで実現する。こうやって日々、みんなが一緒になって「経済／非経済」を区別するという「きまり」を維持しているのだ。

⑮ でも、いったいなぜそんな「きまり」が必要なのだろうか？



祝儀袋

⑯ ぼくらはいろんなモノを人とやりとりしている。言葉や表情なども含めると、つねになにかを与え、受けとりながら生きている。そうしたモノのやりとりには、「商品交換」と「贈与」とを区別する「きまり」があると書いた。

⑰ ひとつ注意すべきなのは、そのモノのやりとりにお金がか介在すれば、つねに「商品交換」になるわけではない、ということだ。

⑱ 結婚式のご祝儀や葬儀の香典、お年玉などを想像すれば、わかるだろう。お金でも、特別な演出（祝儀袋／新札／袱紗／署名）を施すことで贈り物に仕立てあげられる。

ふつうは結婚式の受付で、財布からお金を出して渡す人なんていない。

⑲ なぜ、わざわざそんな「きまり」を守っているのか？ じつは、この「きまり」をとおして、ぼくらは二種類のモノのやりと

5 コンビニ 食料品・日用品などを扱う小型のスーパーマーケット。コンビニエンス・ストアの略。

6 メッセージカード 伝言を書き込んだカード。

7 ご祝儀 ここでは、祝意を表すために贈る金銭や品物。

8 香典 死者にゆかりのある者が葬儀のときに持ち寄る金銭や品物。

9 袱紗 儀礼に用いられる方形の絹布で、金銭を包んだり、上に掛けたりする。

（外的）（歴然）（差異）
（対比）（介在）

りの一方には「なにか」を付け加え、他方からは「なにか」を差し引いている。

②⑥ それは、「思い」あるいは「感情」と言ってもいいかもしれない。

②⑦ 贈り物である結婚のお祝いは、お金を祝儀袋に入れてはじめて、「祝福」という思いを込めることができる。と、みんな信じている。

②⑧ 経済的な「交換」の場では、そうした思いや感情はないものとして差し引かれる。ハンバーガーショップの店員の「スマイル」は、けっしてあなたへの好意ではない。そう、みんなわかっている。

②⑨ 経済と非経済との区別は、こうした思いや感情をモノのやりとりで付加したり、除去したりするための装置なのだ。

②⑩ レジでお金を払って商品を受けとる行為には、なんの思いも込められていない。みんなそう考えることで、それとは異なる演出がなされた結婚式でのお金のやりとりが、特定の思いや感情を表現する行為となる。

②⑪ それは、光を感じるために闇が必要なように、どちらが欠けてもいけない。経済の「交換」という脱感情化された領域があつてはじめて、「贈与」に込められた感情を際立たせることができる。だからバレンタインのチョコで思いを伝えるためには、「商品」とは異なる「贈り物」にすることが不可欠なのだ。

10 スマイル 微笑。ほほえみ。[英語] smile

み。[英語] smile

11 レジ スーパーマーケットや飲食店などで、金銭登録器を備えて客からの支払いを受ける場所。レジスターの略。[英語] register

⑩ 「脱感情化され」とはどのようなことか。

②⑫ 感情は、人やモノの配置／関係のなかで生じ、はじめて理解できるようになる。だから、他人との関係が変われば、感情の生じ方にも違いがでる。苦しんだり、悲しんだりしていたことが、人やモノの関係が少しずれるだけで変わる可能性がある。

②⑬ 日本では、自然と感情を生じさせるような状況が社会から排除されている。それは人と人とのやりとりを「経済化＝商品交換化」してきた結果でもある。

②⑭ 商品交換は、やりとりの関係を一回で完結／精算させる。「負い目」や「感謝」といったモノのやりとりに生じやすい思いや感情は「なかったこと」にされる。そこで対面する「人」は、脱感情化された交換相手でしかない。与えるべきものを与え、もらうものをもらったなら、その関係は終わる。この交換の関係は、コミュニケーションの基盤となる「共感」を抑圧する。

②⑮ 人は、相手がなにを考え、感じているかわからないと、コミュニケーションを始めることができない。道を歩いていると、見覚えのある人がやってくる。名前が思い出せない。相手も自分のことを忘れているかもしれない。ちらちらと様子をみて、こちらに気づかないようであれば、声をかけにくい。

②⑯ でも、ふと目が合ったとき、相手が笑顔になれば、自然とコミュニケーションが始まる。相手の言葉や表情の意味を読みとる（＝共感する）ことが、その場にふさわしいコミュニケーションを進める鍵となる。

12 コミュニケーション 互いに意思や感情、思考を伝達し合うこと。[英語] communication

語] communication

⑯ (付加) (除去) (領域) (精算) (抑圧)

③① 子どもをあやしてふくれっ面をする母親に、「なにを怒っているの!」と咎める人は、適切なコミュニケーションができない。表現された感情の意味を感じとるには、他者のしぐさの置かれている文脈に自分自身を同化させる必要がある。

③② 感情は、人やモノの配置／関係に沿って生じる。だから、人は、つねにその文脈に寄り添い、他者の身体に生起しているのであろう「なにか」を自分のものとして感じ、その意味を読みとろうとする。そうしてはじめて、自分の感情を適切に表現し、相手の感情の意味に沿ったコミュニケーションが可能になる。

③③ 自分の思いを表現し、他者の思いに共感する。これは、人類が進化によって獲得してきた卓抜した能力のひとつだ。人間ほど顔の表情筋が発達している動物はいない。

③④ とはいえ、顔の表情が豊かであれば、相手の内面が手にとるようにわかるわけではない。「笑顔」はつねに「好意」を示しているわけではない。愛想笑いも、苦笑いも、サービスの笑顔も、いろいろある。ある程度まで、その笑顔の背後にある文脈を把握しないと、会話などのコミュニケーションを続けるのに支障が出てしまう。共感の能力がそれを可能にしている。

③⑤ 感情／共感¹³は、ふつうルールに則^{のっと}って作動する。このモノのやりとりは「商品交換」です。よ、と値札やレジ、店員の制服といった装置が明示している。そこでは感情や共感が抑制される。同じようにリボンや包装、返礼までの時間差は「贈り物」の印になる。

④ 「他者のしぐさの置かれている文脈に自分自身を同化させる」とはどのようなことか。

13 ルール 規則。規定。
[英語] rule

⑤ 「ルールに則^{のっと}って作動する」とはどのようなことか。

そこには思いや感情が込められていると感じる。まるで配置される人やモノに感情を引き出したり押し込めたりするスイッチが埋め込まれているかのようだ。

③⑥ いろんなモノや人がひとつの輪としてつながることで、その輪の一部を構成する「わたし」に感情が生じていると言ってもいい。交換や贈与というモノを介したコミュニケーションは、まさにその「輪」をつなげたり、切り離したりする行為なのだ。

⑥ 他者 (文脈) (生起)
⑦ 卓抜 (把握) (作動)



松村圭一郎 一九七五(昭和五〇)年。文化人類学者。熊本県に生まれた。エチオピアの農村や中東の都市でフィールドワークを行い、富の所有や分配、出稼ぎなどについて研究をしている。この文章は二〇一七年刊行の『うしろめたさの人類学』に収められており、本文は同書によった。

◆主な著書 『所有と分配の人類学』など。